

## 教育講演

## 宮崎県医師会医学会

2017年9月2日、宮崎県医師会医学会が開催されました。特別講演として、センター長の丸山眞杉医学部長が、「初期研修から専門医取得まで一宮崎大学の取り組み」を講演されました。本学医学部が臨床研修制度開始時より行ってきた県内全域の55研修施設と連携したAll Miyazaki型臨床研修プログラムの特徴と成果、そして、その医師養成の流れを重視した新専門医制度における専門医養成体勢のあり方など、宮崎大学および宮崎県での質の高い医師養成と医師確保の展望について詳しいお話がありました。



## 宮崎大学医学部Faculty Development (FD)

2017年9月21日、宮崎大学医学部FDが開催されました。副センター長（臨床医学教育部門長）の小松弘幸先生が「日本の医師養成制度（卒前・卒後・専門医）変革の現状と宮崎大学の対応」を講演しました。医学教育分野別認証評価制度の導入、モデル・コア・カリキュラムの改訂、Post-Clinical Clerkship OSCEの全国実施、国家試験出題の改訂など、目まぐるしく変化する医学教育の現状の概説や、本学医学部が卒前・卒後一貫教育の充実を目指して医療人育成支援センター新設に至った経緯と現在の活動について、医学部教員や病院指導医への解説がありました。



## 学会発表報告

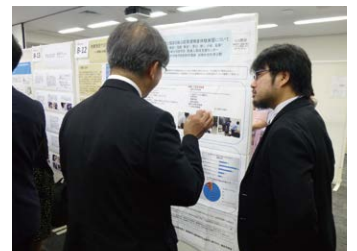
## 日本医学教育学会

2017年8月18～19日、札幌医科大学にて第49回日本医学教育学会大会が開催されました。学会では、卒前・卒後の医学教育に関する10のシンポジウムや、全国の医学部や研修病院から400題を超える演題発表がありました。副センター長の小松弘幸先生が、一般演題として「臨床研修事務担当者のための教育ワークショップは有効か?」、シンポジウム『シミュレーション医療教育の現状と展望』のシンポジストとして「卒前・卒後一貫教育におけるシミュレーション教育の活用」をそれぞれ発表しました。

また、学会翌日に開催された第4回シムリンピック（全国医学生による臨床推論+実技シミュレーション課題へのチーム競技）にも、企画・課題作成・当日運営者として参加しました。

## 日本シミュレーション医療教育学会

2017年9月23日、東京医科大学にて第5回日本シミュレーション医療教育学会大会が開催されました。本学からは長野健彦先生（臨床医学教育部門）が「解剖学と臨床を結ぶ超音波検査体験実習について」、川崎由美子先生（看護実践教育部門）が「新人看護師を対象としたシミュレーションによる『死後のケア』教育の有用性」をそれぞれ発表しました。



## 論文紹介

## 日本シミュレーション医療教育学会誌

日本シミュレーション医療教育学会誌Vol.5に加藤沙弥佳先生（看護実践教育部門）の論文「女性医師・看護師のためのシミュレータを用いた復職支援実習」が掲載されました。本学で実践してきた復職支援実習5年間の実習ニーズと実施後評価についてまとめたものです。別刷ご希望の方は、医療人育成支援センターまでご連絡下さい。



## 実践報告

## 女性医師・看護師のための医療シミュレータを用いた復職支援実習

加藤 沙弥佳<sup>1)</sup> 小松 弘幸<sup>2)</sup> 舟橋 美保子<sup>2)</sup> 船元 太郎<sup>2)</sup> 中島 孝治<sup>2)</sup>  
長野 健彦<sup>2)</sup> 山本 恵美子<sup>2)</sup> 安倍 弘生<sup>2)</sup> 有村 保次<sup>2)</sup> 丸山 眞杉<sup>2)</sup>

1) 宮崎大学医学部 医療人育成支援センター  
2) 宮崎大学医学部 社会医学講座 データマネジメント分野

## 要旨

近年ライフワークに関連した女性医師者の離職の増加に伴い、女性医師・看護師の復職支援は重要課題となっている。そこで、我々は、2011～2015年に復職支援の一環としてシミュレータを用いた女性医師・看護師のための復職支援実習を実施し、受講後アンケート調査により実習の評価を行った。実習参加人数は延べ54名（女性医師9名、女性看護師45名）で回答が得られた22名（回収率96.3%）のうち、80.8%が今後の復職や技術向上に非常に役立つと回答した。シミュレータを活用した復職支援の満足度は高く、本実習のみでは復職可能な段階には至らないものの、復職への意欲を高めるきっかけとなった可能性がある。

### ●臨床医学教育部門

#### 医学科1年生と2年生で早期体験実習を行っています!

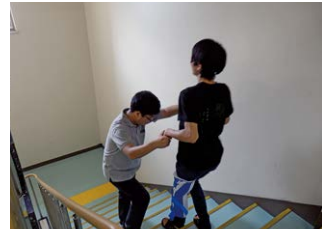
##### 学内早期体験実習(医学科1年生)

5月中旬より6月末まで毎週金曜日に医学科1年生の学内早期体験実習を行いました。本学附属病院の各診療科と中央診療施設で1名ずつ実習を行い、臨床見学や看護体験を行いました。実習終了後はグループ毎に振り返りを行い、7月14日には1年生全体で実習まとめ発表会を行い、各グループが実習で学んだことや印象に残ったことなどを発表しました。医療人としてのマナーやコミュニケーションの大切さ、医療安全・多職種連携について学び、医学生としての自覚を深めたようです。



##### 早期地域医療体験実習(医学科2年生)

8月に4日間の早期地域医療体験実習を行うため、6月から7月に事前講義を行いました。6月21日の講義では、二人一組になって「高齢者・障がい者体験」を行いました。「介護をする側の立場としては、次の足元に何があるか伝えることが一番重要だと感じた」「しっかり手をつないであげたり、背中に手を置いてあげるだけで、相手を安心させることができることに気がついた」という学生の感想がありました。実際に体験することで、利用者が何を求めているのか、介助側はどのように行動すればよいか分かったのではないかと思います。(安倍)



### ●看護実践教育部門

#### 看護学科・看護部・医療人育成支援センター合同採血実習

宮崎大学医学部看護学科と宮崎大学医学部附属病院看護部では、看護学生の卒前卒後の一貫した教育を目指すことを目的に、昨年度から看護学科、看護部、医療人育成支援センター看護実践教育部門が連携し、採血ワーキング・グループが立ち上がりました。

その企画の一つとして、平成29年7月31日、実際に附属病院で使用している物品を用いての静脈採血演習を看護学科4年生に実施しました。学生からは「臨床現場で求められていることを知ることができた」「看護師の指導を受けてモチベーションがあがった」などの意見が聞かれました。指導者からは「4年生の状況がより理解できた」「看護師と学生のつながりができた」などの良い評価が得られました。

次回は、新人看護師研修において、静脈採血技術習得のサポートを行う予定です。(山本)



#### 看護部新人教育(シミュレーション)について

看護実践教育部門では、看護部・看護実践支援室と連携し、シミュレーション教育を行っています。5月は、看護ケアシミュレーションルームで今年度の新規採用者対象に導尿・膀胱内留置カテーテル挿入・筋肉注射の研修を行いました。7月には基本診療・技能シミュレーションルームで既卒者対象の静脈注射研修を行い、10月には新卒者対象の研修を実施する予定です。今後も、看護部と連携しシミュレーションを活用した研修を行っていく予定です。(川崎)

#### 看護部門教員の附属病院での活動

##### 患者支援センター/山本

主に入院支援に関する業務に携わっております。地域の皆様がスムーズに医療を受けることができるよう努めております。

##### 精神科病棟/加藤

リエゾン精神専門看護師として、精神科だけでなく一般診療科に入院している患者・家族の心のケアを行っています。リエゾンとは「つなぐ」を意味する言葉です。精神看護と身体看護、患者と医療関係者、医療スタッフ間を「つなぐ」ことを目標に看護活動しています。

##### 看護実践支援室/川崎

新規採用者や、卒後2年目看護職員対象の看護部現任教育研修にアシスタント・ファシリテーターとして参加しています。また、看護実践支援室と連携し、新人看護職員を含め支援が必要な看護職員の相談対応や看護技術への支援を行っています。



## 各部門活動報告

### ●医療シミュレーション教育統括部門

#### 平成29年度宮崎大学医学部オープンキャンパスで体験コーナー(模擬実習)を開催!

8月10日、11日の2日間、宮崎大学医学部オープンキャンパスが開催されました。当センターでは模擬実習を開催し、2日間で約80名の高校生の参加があり、多くの御父兄の方にも参加していただきました。今年は静脈採血、超音波検査、消化管内視鏡検査、二次救命処置の体験を企画し、いずれも好評をいただきました!参加された高校生と数年後に宮崎大学医学部で再会できたら嬉しいです。



#### 教育コースを続々開催!

今年は教育コースを続々開催しております。

5月に「第1回 医学生・研修医のための気道管理コース」を開催しました。4時間のコースで、酸素療法や迅速気管挿管について学んでいただきました。初めて気管挿管する医学生もコース終了時には落ち着いて気管挿管できるようになりました!



6月に「第1回 看護師・コメディカルのための、もう一度確認!酸素療法コース」を開催しました。日頃何気なく行っている酸素療法について改めて勉強していただきました。低流量と高流量システムの違いなども理解していただけたと思います。



9月には「第1回 医学生・研修医のための二次救命処置(ICLS)コース」を開催しました。ICLS認定コースに加え、外傷診療や内科救急についてのシミュレーションも取り入れ、救急医療に必要な動きを身につけることができたのではと思います。

今後も即実戦で役に立つ魅力的な教育コースを続々開催していきます!(長野)

### ●医療人キャリア支援部門

#### キャリアカフェの開催

今年の6月から医学科5年生を対象にキャリアカフェをはじめました。実習終了後の時間を使ってキャリアをテーマに考える場を作っています。

キャリアカフェの内容は「自身の(職業)興味を知ろう」をテーマに質問シートに答える形式で進めています。特定の診療科に適性がある、など具体的に勧めるものではなく、「スキルを武器」「意外と研究志向」など結果を元に班員みんなで見せ合い談笑しています。進路を決めている人もいれば、実習中に変わる人もいます。キャリアカフェを通じて自身のキャリア形成の一助になれば良いかな、と考えています。



#### 第7回女性医師・看護師のための復職支援プロジェクトの開催

9月15日、第7回女性医師・看護師のための復職支援プロジェクトを開催いたしました。本年は台風接近という悪天候の中、6名の看護師の方にご参加いただきました。今年は静脈採血や心電図の読み方など知識、手技、技術の実習を行ったあと、新たに作成したクリニックや介護施設などの現場で起こりうるシナリオを用いて、前半で行った実習を実践してもらいました。復職を躊躇する理由のひとつに「急変時の対応に不安がある」のではないのでしょうか。今回のシナリオに対し参加者皆さんが適切に対処できましたので不安の解消、自信につながったのではないのでしょうか。プロジェクト後のアンケートでは全体的に高いご評価を、シナリオ演習にはすべての参加者に高評価をいただきました。今後さらに充実した内容で継続していきたいと考えています。また、今回の復職支援プロジェクトにはテレビの取材が入りその様子を録画しています。プロジェクトの概要を知りたい方は是非ご連絡下さい。(船元)



## ● 新任教員紹介



皆様こんにちは。4月から医療人育成支援センター看護実践教育部門に配属されました川崎由美子です。3月までは、附属病院5階西病棟で副看護師長として勤務しておりました。附属病院には看護師4年目で入職し、これまで1階東病棟、3階東病棟、5階西病棟、治験管理センター、看護実践支援室で勤務をしました。ほとんどが病棟勤務であったため、医療人育成支援センターの一員としては未熟な点が多々あると思いますが、臨床での実践経験を活かして、卒前・卒後・多職種連携教育など看護実践教育部門の役割を果たすことができたらと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 医療面接模擬患者 (SP) ボランティア募集

～私たちと一緒に医学生を育てていきませんか!～

医師と患者さんのやりとり(医療面接)を学ぶ際に、何をどのように聴くのか、というコミュニケーションを学ぶには、講義による知識の習得だけではうまくいかず、体験学習が求められます。そのため、SPと呼ばれる模擬患者を用いた教育がなされています。SPの定義は、「学習者の教育のために一定の訓練を受けて、実際の患者と同じような症状や会話を再現する患者役を演じる人」とされています。

本学では、平成19年4月から『安息の会』のボランティアの方にご協力いただき、模擬患者(SP)参加型医療面接実習を行っております。少しでも興味を持っていただいた方、実際に実習の様子を見学しに来ませんか。お待ちしております!!(舟橋)  
(ボランティア参加申込みはホームページをご覧ください)

## 医療人育成支援センターホームページおよびFaceBookの紹介

平成29年3月にホームページをリニューアル、6月からはFacebookも始めました。センターの紹介やイベントの情報を随時更新していますので、ぜひ遊びに来てください。

医療人育成支援センターホームページ

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/iryoujin/>

医療人育成支援センターFacebook

<https://ja-jp.facebook.com/iryoujinikusei/>



《HP》



《facebook》

## <開催報告>平成29年度 未来の医療を語る全員交流会 in MIYAZAKI

2017年9月26日、宮崎観光ホテルにて本学医学科5年生を対象とした全員交流会が開催されました。主催は宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会で、宮崎大学からはキャリア支援サポート委員会と医療人育成支援センターが運営のお手伝いをしました。河野県知事、河野県医師会長、池ノ上学長の豪華ゲストが揃う中、本センターの小松弘幸先生が『みんなで語ろう!考えよう!医師のキャリア』と題した基調講演を行い、将来選択の決断に必要な心構え、人工知能に負けない医師実力を磨く環境、ワークライフバランスの考え方を熱く語りました。その後、150名を超える医学生と指導医がこれらの話題を含めて大いに語り、盛会となりました。



宮崎大学医学部医療人育成支援センター

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地

TEL:0985-85-8305 FAX:0985-85-7239 E-mail:ikyoku@med.miyazaki-u.ac.jp